第7講

人文科学系(7)
教育現場における性的マイノリティ

チャプター1

資料読解

生徒メモ欄

近年，「LGBT」について報道されることが増えてきたが，今なお性的マイノリティについての社会的な理解が進んでいるとは言えない。日本では，家族の中や，学校や職場の人間関係，地域社会などに性的マイノリティがいることがあまり認識されていない。当事者たちは，教育，就労，パートナーとの関係，医療，公共サービスなど生活のあらゆる場面で困難・不利益を抱えている。

(注) 性的マイノリティを表す言葉には，LGBTに加えて，Questioningの頭文字Qを足した「LGBTQ」や，Intersexを加えた「LGBTI」など，さまざまなものがある。

【資料1】 性的マイノリティ(LGBT)の人権

1 LGBTとはレズビアン(女性同性愛者)，ゲイ(男性同性愛者)，バイセクシュアル(両性愛者)，トランスジェンダー(性別越境者，性同一性障害者を含む)の総称で，性的指向(恋愛・性愛感情が向く性)や性自認(こころの性)等の面で少数派(マイノリティ)に属する人々です。LGBT人口は全体の約5％(20人にひとり)と言われています。「自社の職場には…」という声も聴かれますが，実はみなさんが「すでに直面している課題」なのです。LGBTは職場にいないのではなく，周囲に言えない，可視化されていない状態にあり，職場のなかで「働きづらさ」を感じています。働きづらさを抱えたままの労働環境は，本人にとっても，企業にとってもプラスには働きません。性同一性障害については条件付きで性別の変更が可能になりましたが，同性パートナーの

法的保障や職場での差別禁止等，法的な整備はされていません。企業の社会的責任（CSR）の一環として，見えないマイノリティへの配慮を示すことが求められています。
出典：認定NPO法人　虹色ダイバーシティの公式サイト（https://nijiirodiversity.jp/）より，一部抜粋。

【資料2】　キーワードは「性自認」と「性的指向」

1　LGBTを理解する際，「性自認」と「性的指向」という言葉を知っておく必要があります。

2　性自認とは，その人が自分自身の性別をどう思っているかに関する，ある程度持続的な自己意識（アイデンティティ）のことです。

3　もし割り当てられた性別が女性で，性別に関する自己意識，つまり性自認が男性ならば，「トランス男性」です。逆に，割り当てられた性別が男性で，性自認が女性ならば，「トランス女性」です。

4　かつて，トランス男性を「FtM」，トランス女性を「MtF」と呼ぶことが広く定着していました。FtMとは「Female to Male（女から男へ）」の略，MtFはその反対です。しかし，呼ばれたくない性別が呼称の中に残ることから，世界的には「トランス男性」「トランス女性」という表現へと切り替わってきています。

5　「性的指向」とは，魅力を感じる性別の方向性のことで，たとえば性自認が女性で性的指向が女性に向くならば，レズビアンです。男性に向くならば異性愛女性です。両方に向く場合はバイセクシュアル女性です。

6　ところで，ある人の割り当てられた性別が女性で，性自認は男性，性的指向は男性だと自己認識している場合，その人は異性愛者でしょうか，ゲイでしょうか。

7　自分が何者であるかは，本人のアイデンティティを尊重します。この人の場合，自己を男性と考え，男性を好きであるため，ゲイです。すべての人々にとって，どういったカテゴリーに該当するかはアイデンティティが尊重されます。

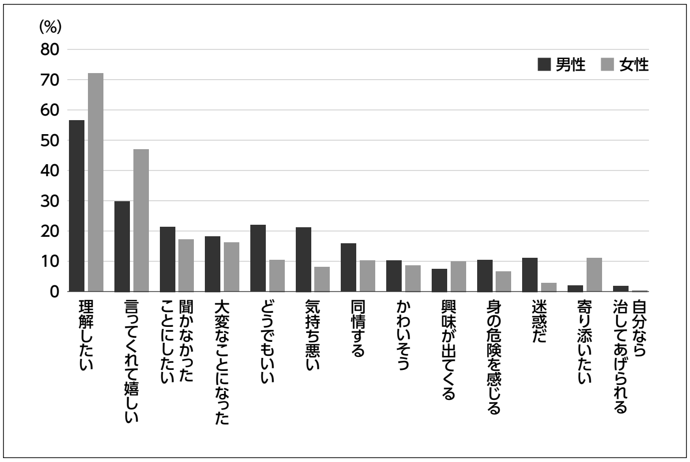
8　なお，「自分の割り当てられた性別が女性であることに違和感を抱くが，男性になりたいわけではない」場合に「FtX」，逆の場合に「MtX」と自己規定する人々もいます。「X」はF，Mどちらでもない「何か」を表します。これらの人々を総称して「Xジェンダー」といいます。
出典：石田仁（2019）『はじめて学ぶLGBT－基礎からトレンドまで』ナツメ社，18～19頁より，一部抜粋。

生徒メモ欄

生徒メモ欄

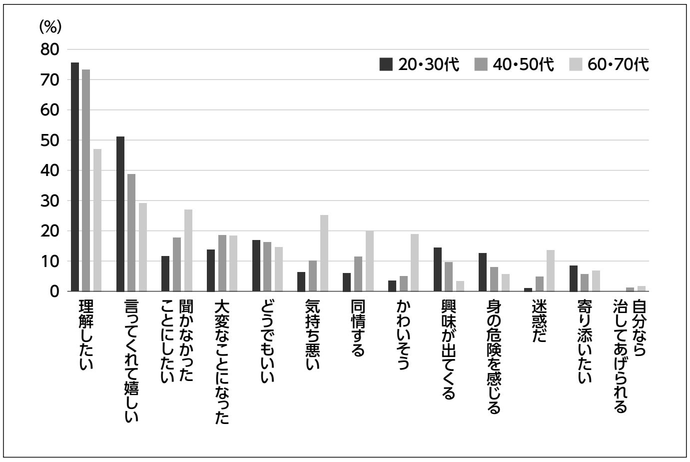
【資料3】　同性愛者についての意識調査

【資料3−1】　回答者の性別でみた，仲の良い同性の友人から同性愛者だと告げられた場合の反応



（回答者数：男性539人　女性614人）回答者の性別は自認する性別による。

【資料3−2】　年代別にみた，仲の良い同性の友人から同性愛者だと告げられた場合の反応



（回答者数：20−30代 324人　40−50代 430人　60−70代 399人）
全国20歳から79歳までの（戸籍上の）男女・計2,600人を対象とした調査。（回収率48.4%）
出典：釜野さおりほか（2016）『性的マイノリティについての意識 2015年全国調査報告書』より作成。

【資料4】　性的マイノリティの子どもが学校で困りやすいこと（当事者の声）

- トイレで立って用を足すのに抵抗があった。学校で個室を使うと「うんこしてる」ってからかわれるから，給食の時間に体育館やプールなど，ひと気がないトイレを使っていた。（二十代・トランスジェンダー女性）
- 女子の制服がいやで，スカートの下に常にズボンをはいていた。それは反抗じゃなくて制服がいやだったからなんだけど，頭ごなしに怒られてつらかった。（二十代・トランスジェンダー男性）
- 健康診断で男子は上半身裸で待つのがいやだった。先生に「いちばん最後にしてほしい」と相談したが取り合ってもらえなかった。（二十代・ゲイ）
- 歴史の授業で「○○と○○ってホモで，できてたらしいぞ」といって，クラス全体が笑った。自分もばれないようにと無理して笑ったけれど，自分で自分のことを笑っているようでつらかったし，この学校ではカミングアウトできないと思った。（二十代・ゲイ）
- 中学校の総合の授業で，将来設計をしようという授業があった。「いつ結婚しますか?」「いつ子ども生みますか?」みたいな。「私の人生にはそれらが事前に組み込まれていて，時期だけ微調整するものなのかな？」って思った。（二十代・レズビアン）
- 運動部に入っていたが，男らしさ・女らしさを強調されることが多くて，たいへんだった。「男は重いもの運べ！女に運ばせるな！」みたいな。（二十代・MtX）
- 小学校で「性同一性障害かも」と思った頃からインターネットで情報を探したが，間違った情報が多かった。たとえば，「仕事の選択肢はない」とか「ホルモン療法等の治療をしたら，寿命は三十歳」とか。それらの情報を信じて，どう生きていけばいいのかわからなくなった。（二十代・トランスジェンダー男性）
- テレビのなかでも学校でも男性が好きな男性は笑われる対象だったり，きもいと言われる対象だったから，自分のことを気持ち悪い存在だと思っていた。（二十代・ゲイ）
- 女子の制服から男子の制服に変えたいと学年主任の先生に話をしたとき，「勘違いなんじゃない？そんなこと気にしなくていいだろ」と否定的な対応を受けた。（二十代・トランスジェンダー男性）
- 中学の頃いじめられていた。「ほんとに女か？」と制服を脱がされたり，上履きをトイレに入れられたり。全学年の人に「男みたいできもい」「レズ」と言われていたが，誰に

生徒メモ欄

生徒メモ欄

も相談できなかった。(二十代・トランスジェンダー男性)

- LGBTの大人に会ったことがなかったから，仕事をしたり，家族やパートナーをもったり，友人関係を築いたり，「普通に」生活している姿をイメージできなかった。将来に対する不安がいつもあって，進路を決めるときもなかなか勉強に身が入らなかった。(二十代・ゲイ)
- 自分はいわゆる結婚はしないんだけどな，っていう思いがあったが，学校でのキャリア教育は結婚が前提で，自分の将来が描けなかった。「いろんな生き方があるんだよ」とか「いろんな家族があるんだよ」ってもっと早くから教えてほしかった。(二十代・レズビアン)

(注) トランスジェンダー男性は「トランス男性」，トランスジェンダー女性は「トランス女性」と同義である。

出典：薬師実芳　「多様な性をもつ子どもの現状と教育現場で求められる対応について」（「教育とLGBTIをつなぐ」所収）　青弓社，2017年，123〜126頁より作成

【資料5】　LGBTの学校生活に関する実態調査

【資料5−1】　自分自身がLGBTであることを話さなかった理由（複数回答）

	性別違和のある男子	非異性愛男子	性別違和のある女子	非異性愛女子
理解されるか不安だった	62%	67%	66%	59%
話すといじめや差別を受けそうだった	60%	59%	38%	33%
特に話す必要を感じなかった	34%	46%	45%	49%
どう話したらいいかわからなかった	51%	40%	46%	39%
その他の理由で話さなかった	14%	10%	9%	10%
話さなかった相手は特にいない	2%	1%	3%	1%

【資料5−2】 LGBTをネタとした冗談やからかいを見聞きした際の対応（複数回答）

	性別違和のある男子	非異性愛男子	性別違和のある女子	非異性愛女子
何もしなかった	71%	68%	75%	87%
自分がいじめられないよう一緒になって笑った	17%	38%	25%	30%
やめてほしいと言った	16%	14%	13%	14%
親に相談した	0%	2%	1%	0%
学校の教師に相談した	3%	1%	1%	8%
他の友人や同級生に相談した	3%	2%	2%	2%

【資料5−3】 いじめや暴力を受けた経験（複数回答）

	性別違和のある男子	非異性愛男子	性別違和のある女子	非異性愛女子
身体的な暴力	48%	23%	19%	10%
言葉による暴力	78%	53%	54%	45%
性的な暴力（服を脱がされる・恥ずかしいことを強制）	23%	12%	12%	7%
無視・仲間はずれ	55%	34%	51%	57%
上のような経験はない	18%	35%	30%	36%

生徒メモ欄

生徒メモ欄

（注1）　報告書には小数点以下の表記はないため，そのまま記載している。

（注2）　10歳から35歳までの当事者に調査をおこない，過去や現在の学校生活上での経験について，609人の回答を集計している。各表の回答者数は，性別違和のある男子65名，非異性愛男子154名，性別違和のある女子180名，非異性愛女子210名。男子・女子は「生物学的性別」を指している。

出典：いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン（2014）『LGBTの学校生活に関する実態調査（2013）結果報告書』より作成。

【資料6】　LGBT教育の現状と日本が抱える今後の課題

1　一般的には，思春期に自分の性的指向を自覚し始めます。早ければ小学生のうちに自分の性に違和感を覚えたり，自覚したりする子どももいます。

2　性自認や性的指向を自覚し始める思春期を過ごす学校では，どのようなLGBT教育が行われ，そして課題が残っているのでしょうか。

3　平成27年に文部科学省から教職員に向け「性同一性障害や性的指向・性自認に係る，児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について」という資料が発行されました。

4　しかし，平成29年（小・中学校）・平成30年（高等学校）に公示された新学習指導要領には，「性の多様性」は盛り込まれず，これまでと変わらない「思春期になると異性への関心が芽生える」という記載が教科書に残ったままです。

5　これに対して「同性愛を無視した記述を変えるべき」「LGBTを指導内容に入れてほしい」という声もありましたが，それらの意見は文科省により却下されました。

6　小学校や中学校，高等学校で使用される教科書のなかには，LGBTや性の多様化についての説明が盛り込まれているものもあります。一方，教科書の採択は各自治体や学校に委ねられ，学習指導要領にも記載されていないため，学校でLGBTについて学ぶ機会があるとは限らないというのが日本の現状です。

7　学校でLGBT教育を行う上で課題となるのが教員の知識や理解不足です。指導する側のLGBTに対する知識が十分でないことが，子どもに正しい知識を教えることを難しくしています。教員の知識・理解不足の課題を解決するために

は，研修やワークショップを実施するなど，LGBTへの理解を深めるための努力が欠かせません。

8　また，学校の指導において意識しなければならないのが，すべての児童・生徒がLGBTについて正しく指導を受けることです。LGBTに関する授業を受けながら不快な思いをしたり，LGBTの子どもがいじめを受けたりといったことにならないよう，性的マイノリティへ配慮した学習指導要領や教科書の表記が求められます。

9　同時に，校内環境を整えること，専門機関や医療機関との連携も今後の課題として残ります。授業以外の場面も含め，学校全体で児童・生徒のサポートやケアを行うことが重要です。

10　学校のLGBT教育に求められるのは，LGBTに悩む生徒が疎外感を抱かないように配慮した言動です。教員が児童・生徒に対して揶揄（やゆ）したり，笑いの対象にしたり，すべきではないことや，性的マイノリティに理解があることを伝えることも大切です。

11　さらに，多目的トイレの設置や水泳着・体操服・制服の自由化，宿泊学習でのお風呂など，性同一性障害に悩む生徒へ配慮した取り組みも欠かせません。学校には，誰にも相談できずに自分の性自認や性的指向について悩む児童・生徒が少なからず存在します。

12　そのような生徒が相談しやすいよう，養護教諭やスクールカウンセラーを含めたサポートチームを結成したり，医療機関や専門機関との連携を図ったりすることも有効な取り組みです。学校が一丸となり，児童・生徒が安心して通える環境や相談できる体制をつくることが不可欠といえます。

出典：日本教育新聞電子版（NIKKYO WEB）「LGBT教育に求められる取り組みとは？　日本の現状と残された今後の課題」（2020年5月31日）より，一部抜粋。

（福岡県立大学　人間社会学部　2021）

生徒メモ欄

チャプター2

問題およびヒント

問題を見てみよう

【資料4】～【資料6】をすべて用いて，教育現場で性的マイノリティの児童・生徒が抱えている困難の現状と，それを解決するうえで必要な対応について600字程度で述べなさい。ただし，以下の2点に必ず言及すること。

⑴ 学校で性的マイノリティの児童・生徒が抱えている具体的な悩みや苦痛

⑵ 教育行政や学校，教員に求められる対応・取り組み

（注）解答にあたっては「児童・生徒」を「生徒」と表記してもよい。

解答案をつくってみよう

100

200

300

400

500

600

（　　　　字）

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下の表を用いて自己評価をしてみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

答案例①

　資料4によると性的マイノリティの生徒は制服やトイレなど、性による区別が際立つ場面や「男らしさ」「女らしさ」からの逸脱を感じることで特に苦痛を感じること、資料5からは友達に本当のことが言えなかったり、からかいやいじめを心配しながら学校生活を送ったりしている様子がうかがえる。自分らしさを表現することから疎外されていると言えるだろう。しかし、男らしさ女らしさというジェンダー規範の強要や結婚出産を当然の将来設計とし、それ以外の将来のモデルケースを明らかにしない教育はLGBT当事者だけでなく、誰をも「自分らしさ」から疎外させる可能性の問題ではないだろうか。

　資料6では制服の自由化や多目的トイレの設置に加え、LGBTについての教職員の知識向上が試みられていることが書かれているが、誰にとっても結婚や出産は個人的なものであり誰も強要できるものではないことや、多様な家族の在り方があること、個性はジェンダーを超越していることを指導していく必要があるのではないだろうか。

　経済政策でも標準とされている「両親と子どもによる核家族」は、すでに現状に適合しない。現実には離死別による単親家庭や再婚によるステップファミリー、また生涯未婚率上昇により単身生活者も多いはずだ。今後の教育では、多様な暮らし方があり、どのような暮らし方でも生活できることを指導していく必要があると考える。

(591字)

生徒メモ欄

教員記入欄

評価してみよう

答案例①を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

答案例②

　資料４から、性的マイノリティの生徒たちは教育現場で、既成概念通り生活することを求められ、本来の自分を出すことを警戒して、表面的には問題がないよう過ごさなければならない。「普通」ではない自分を否定し、将来に希望を持てなくなっている生徒もいる。ＬＧＢＴへの理解力も乏しく、資料５では回答者の過半数が自分について話すことが周囲に理解されるのかということに対して不安を感じている。

　資料６は教育現場におけるＬＧＢＴへの理解を求めている。教員、生徒の指導、学校施設の改善、スクールカウンセラー配置など学校全体でのサポートを改善策としているが、教員や生徒にＬＧＢＴの指導をしても感性は人それぞれ異なるため、必ずしも解決策とは言えない。例えば教師が、理解ある教師として生徒との信頼関係を築く可能性だけでなく、意図せず生徒を傷つける言動をしてしまう可能性もある。生徒も同様だ。教育現場という限定環境で特別な教育方針を打ち出すこと自体が「普通」ではなく、逆目立ちとなることで、当事者の肩身は更に狭くなる可能性も少なからずあるだろう。

　この問題を解決するため、社会全体でＬＧＢＴが当然のこととして容認されることが重要だと考える。どのような子でも区別せず、同じ「子ども」として認める目が必要だ。そのためには家族間の信頼関係が重要で、ＬＧＢＴでも一人の大切な子どもであると、まず

は家族という単位から、当たり前に受け入れることができるようになることが大切だ。

（639字）

生徒メモ欄

教員記入欄

評価してみよう

答案例②を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見（主張）	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター5

レベルアップのための読書案内

本講で学んだことを元に、さらにブラッシュアップするための
おすすめの書籍情報を知り、その書籍の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

生徒メモ欄

教員記入欄